

2018 年度事業報告

1. 「公益目的支出計画の実施完了の確認書」の受領

2017 年度で公益目的支出計画の実施を完了し、2018 年 11 月 9 日付で内閣府より実施完了の確認書を受領した。

2. 「夫婦会員」から「家族会員」への改称に伴う「定款」等の改定

「夫婦会員」という会員種別を「家族会員」に改称することを理事会にて発議し、12 月 15 日の理事会にて「会員に関する規則」「執筆要領」の改定、3 月 24 日の評議員会にて「定款」の改定を行った（いずれも 2019 年度から適用）。

3. 会議、広報活動および会員数

(1) 会議の開催状況

(a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
定時 6 月 16 日	(1) 議長の互選について (2) 新理事長・副理事長・常任理事の選定 (3) 委員会新主任・新副主任の選任 (4) 2017 年度事業報告について (5) 2017 年度計算書類（2017 年度計算書類、附属書類〔計算書類関係〕）について
第三回臨時 3 月 24 日	(1) 議長の互選について (2) 2018 年度事業計画について (3) 2018 年度計算書類（計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (4) 評議員候補者選挙管理委員について (5) 「定款」改定について

(b) 理事会

開催年月日	会議内容
第一回通常 5月19日	(1) 2017年度事業報告（案）について (2) 2017年度計算書類（案）（2017年度計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (3) 2018年度定時評議員会開催について (4) 新入会員の承認 (5) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第二回臨時 6月16日	(1) 新理事長・副理事長・常任理事の選定 (2) 委員会新主任・新副主任の選任
第三回通常 9月15日	(1) 2018年度学会奨励賞受賞者決定について (2) 新入会員の承認 (3) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第四回臨時 11月2日	(1) 2018年度研究大会会場・業務委託に関する契約について (2) 新入会員の承認 (3) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (4) 2018年度施研究大会実施状況について報告
第五回通常 12月15日	(1) 「定款」「会員に関する規則」「執筆要領」の改定について (2) 2018年度研究大会実行委員会会計決算について (3) 2018年度第一回臨時評議員会開催について (4) 新入会員の承認 (5) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告
第六回通常 3月3日	(1) 「会則に関する規則」の追加改定について (2) 2019年度事業計画（案）について (3) 2019年度計算書類（案）（計算書類、附属明細書〔計算書類関係〕）について (4) 新入会員の承認 (5) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告

(c) 総会

11月3日、大宮ソニックシティ小ホールにおいて会員総会を開催した。

(2) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
4月27日	Newsletter 155号刊行	会員	学会ウェブサイト公開
7月31日	Newsletter 156号刊行	会員	
10月31日	Newsletter 157号刊行	会員	
2月28日	Newsletter 158号刊行	会員	

①Newsletterは学会ウェブサイトで開催している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletterの目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内11件、理事会・委員会からの連絡22件、研究大会の関連情報24件、シンポジウム等の案内や公募情報69件、合計126件の発信をおこなった。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、NLの刊行や研究大会の報告者募集および学会誌への投稿募集などについて連絡を行った。

(3) 会員数の状況

2018年度新入会員	69名
2018年度退会会員	97名

種別	人数
維持会員	0名
一般会員	1,532名
学生会員	290名
シニアA会員	88名
シニアB会員	58名
夫婦会員	30名
計	1,998名

2019年3月31日現在

4. 事業の成果

(1) 継1. 機関誌・書籍発行业

1. 和文機関誌『国際政治』193号「歴史のなかの平和的国際機構」、194号「体

制移行と暴力——世界秩序の行方」、195号「関係回復の論理と実証」、196号「国際政治研究の先端16」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保すると同時に、196号は独立論文号として特に若手研究者がその研究成果を発表する機会を提供した。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム（J-STAGE）を活用して、すでに公開された『国際政治』のバックナンバーを今期は195号まで公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.18.No.2、同 No.3、Vol.19.No.1 の計3冊を発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。

4. 本年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費（国際情報発信強化）」を利用して次の事業を行った。①英文ジャーナル編集委員会の海外委員と会議を行い、投稿の促進や編集体制などについて協議した。②IRAPの国際的な認知度を高めるために、オックスフォード大学出版社（OUP）に協力を依頼して、海外の研究者に対するIRAPの情報提供やウェブでのキャンペーンなどを行った。

5. IRAPのインパクト・ファクターは2016年度には0.676であったが、最新版の2017年度には0.906に上がっている。

(2) 継2. 研究会・講演会事業

1. 11月2日～11月4日に大宮ソニックシティにおいて、研究大会を開催した。大会参加者は、参加者682人、懇親会238人であった。共通論題ではパネルディスカッション方式で「現代日本の外交30年」を行い、通常部会14、日韓合同部会1、分科会32企画となった。部会13「『分断』を再考する」を市民公開講座として一般に公開した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

(3) 継3. 国際学術交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、7名の会員に助成を行った。

2. KAIS（韓国国際政治学会）との交流を行った。日本国際政治学会から2名の報告者、および佐々木理事長が11月30日～12月1日に韓国（ソウル市）におけるKAISの研究大会に出席し、佐々木理事長が総会で日本国際政治学会を代表してスピーチを行った。また、日本国際政治学会の研究大会（大宮市、11月3日）では、日韓合同部会“Democracy and Diplomacy in North-East Asia: From

National and Global Perspective”を開催し、KAIS から 2 名、日本国際政治学会から 4 名が報告者・討論者・司会者として参加した。

3. 研究大会（大宮市）では、日韓合同部会の開催について江草基金より国際研究集会開催助成を受けた。

4. International Studies Association (ISA)、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

(4) 他 1. 研究活動奨励事業

2018 年度の第 11 回学会奨励賞を、佐桑健太郎会員の「地域の同盟構造と国際紛争」（『国際政治』189 号）に授与した。本賞は 2008 年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40 歳以下の若手執筆者を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。受賞論文は国際的な政治学・国際政治学受賞論文を掲載する *World Political Science* に学会から推薦される。また、2017 年度第 10 回学会奨励賞を受賞した向山直佑会員による論文英訳に対して助成を行った。

5. 庶務の概要

(1) 役員等に関する事項

2018 年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	佐々木 卓也	立教大学教授
副理事長	大矢根 聡	同志社大学教授
理事	飯田 敬輔	東京大学教授
	石川 卓	防衛大学校教授
	磯崎 典世	学習院大学教授
	遠藤 貢	東京大学教授
	楠 綾子	国際日本文化研究センター准教授
	都留 康子	上智大学教授
	潘 亮	筑波大学教授
	宮城 大蔵	上智大学教授
	森井 裕一	東京大学教授
	山田 敦	一橋大学教授
山田 哲也	南山大学教授	

監事	遠藤 誠治 大島 (岡本) 美穂	成蹊大学教授 津田塾大学教授
----	---------------------	-------------------

評議員	赤木 完爾 大芝 亮 吉川 元 久保 文明 國分 良成 古城 (久具) 佳子 酒井 啓子 添谷 芳秀 田所 昌幸 田中 明彦 中西 寛 李 鍾元	慶應義塾大学教授 青山学院大学教授 広島平和研究所所長 東京大学教授 防衛大学校校長 東京大学教授 千葉大学教授 慶應義塾大学教授 慶應義塾大学教授 政策研究大学院大学長 京都大学教授 早稲田大学教授
-----	---	---

2018 年度事業報告・付属明細書

1. 一般財団法人 日本国際政治学会 2018 年研究大会プログラム

部会・共通論題プログラム

第 1 日 11 月 2 日 (金) 13:00～15:30

受付開始 12:00

午後の部会 (13:00～15:30)

部会 1 「経済と安全保障の連関」

司会 大矢根聡 (同志社大学)

報告 金ゼンマ (明治大学) 「FTA/TPP をめぐる経済と安全保障のネクサス」

藤田泰昌 (長崎大学) 「安全保障要因は FTA への態度を左右するか」

富田晃正 (埼玉大学) 「アメリカ対外経済政策をめぐる外交利益と経済利益の緊張」

討論 清水一史 (九州大学)

武田康裕 (防衛大学校)

部会 2 「キリスト教民主主義と欧州政治——歴史的な考察を踏まえての再検討」

司会・討論 小川有美 (立教大学)

報告 宮下雄一郎 (法政大学) 「ロベール・シューマンの国際秩序観」

板橋拓巳 (成蹊大学) 「ヴァルター・ハルシュタインの戦後秩序構想」

松本佐保 (名古屋市立大学) 「キリスト教民主主義と第二バチカン公会議——世界教会協議会

WCC との関係を中心に」

討論 上原良子 (フェリス女学院大学)

部会 3 「アジアから見た国際連盟——設立 100 周年に向けた国際連盟史の再検討」

司会 篠原初枝 (早稲田大学)

報告 詫摩佳代 (首都大学東京) 「国際連盟シンガポール伝染病情報局とアジアの地域秩序」

高橋力也 (日本大学) 「国際連盟における国際法典編纂事業と日本」

齋川貴嗣 (高崎経済大学) 「国際連盟の知的協力事業と日本・中国」

討論 後藤春美 (東京大学)

等松春夫 (防衛大学校)

部会 4 「グローバル・ガバナンス論の最前線」

司会 福田耕治（早稲田大学）
報告 土屋大洋（慶應義塾大学） 「サイバースペースのグローバル・ガバナンス」
西谷真規子（神戸大学） 「腐敗防止をめぐるグローバル・ガバナンス」
渡邊智明（九州大学） 「気候変動めぐるグローバル・ガバナンス」
討論 山田高敬（名古屋大学）
太田 宏（早稲田大学）

分科会セッション A （15：45～17：15）別掲

分科会セッション B （17：30～19：30）別掲

第2日 11月3日（土）

受付開始 9：00

午前の部会（9:30～12:00）

部会5 日韓合同部会 “Democracy and Diplomacy in North-East Asia: From National and Global Perspective” 【英語で実施】

Chair: Takuya Sasaki (President, JAIR/ Rikkyo University)

Speakers: Dongmin Lee (Dankook University) “Political Leadership and Korean Foreign Policy.”
Ji Young Kim (Hanyang University) “Rethinking the Role of Identity Factors: The History Problem and the Japan-South Korea Security Relationship in the Post-Cold War Period.”

Hidekazu Wakatsuki (Hokkai-Gakuen University) “Japan-China Relations in the 1980s: Focusing on Politics in Japan”

Discussants: Chieko Otsuru-Kitagawa (Kansai University)

Ryo Oshiba (Aoyama Gakuin University)

部会6 「第一次世界大戦とその遺産——第一次大戦終結100周年」

司会・討論 木畑洋一（東京大学）

報告 大久保明（日本大学） 「第一次世界大戦後イギリスのヨーロッパ安全保障政策」

麻田雅文（岩手大学） 「ソ連承認をめぐる国際政治 1920～30年代」

森 靖夫（同志社大学） 「英米から見た日本の総力戦体制の形成」

討論 中谷直司（三重大学）

部会7 「地政学の台頭？——国際政治学の視点から」

司会 高橋良輔（青山学院大学）

- 報告 渡邊公太（帝京大学）「地理から見た国家の本質——N. スパイクマンにおける拡張と防衛の論理」
- 柴田陽一（摂南大学）「帝国日本における地政学の受容と展開——科学性と実践性のはざまで」
- 春名展生（東京外国語大学）「国際政治学の成立と地政学の受容——小野塚喜平次とルドルフ・チェレーンの邂逅を起点として」
- 討論 土佐弘之（神戸大学）
- 福田 宏（成城大学）

部会 8 「国際政治学における『イズム』思考の再検討」（ラウンドテーブル）

- 司会 湯川 拓（大阪大学）
- 報告 土山實男（青山学院大学）
- 宮岡 勲（慶應義塾大学）
- 光辻克馬（東京大学）
- 籠谷公司（大阪経済大学）

部会 9 「保護する実践と統治の現実——コミュニティ・都市・自治」

- 司会 酒井啓子（千葉大学）
- 報告 西山隆行（成蹊大学）「アメリカの聖域都市と不法移民問題」
- 明石純一（筑波大学）「難民の保護とその実質化の過程——日本の第三国定住難民の受け入れを事例として」
- 堀井里子（国際教養大学）「EU 国境管理ガバナンスにおける NGO の役割——地中海での捜索救難活動を事例として」
- 討論 上野友也（岐阜大学）
- 中山裕美（東京外国語大学）

分科会セッション C（13：30～15：10）別掲

総会（15：10～15：30）

【共通論題】「現代日本外交の 30 年」（15:30～18:20）

- 司会 宮城大蔵（上智大学）
- 報告 我部政明（琉球大学） 「安全保障の観点を中心に」
- 大庭三枝（東京理科大学） 「地域主義・アジアの観点を中心に」
- 鈴木一人（北海道大学） 「グローバル・ガバナンスの観点を中心に」
- 討論 古城佳子（東京大学）
- 坂元一哉（大阪大学）

懇親会 19:00~20:30

第3日 11月4日(日)

受付開始 9:00

分科会セッションD (9:30~11:00) 別掲

分科会セッションE (11:15~12:45) 別掲

午後の部会 (14:00~16:30)

部会10 「方法の進展とその達成——通説の修正という観点から」

司会 石黒 馨 (神戸大学)

報告 多湖 淳 (早稲田大学) 「国連決議の対世論説得効果の研究——実験が示す既存研究の問題点」

阪本拓人 (東京大学) 「脅威認識の形成と変容——自然言語処理による可測化と理論検証」

大石晃史 (国立情報学研究所) 「紛争下の離合集散に構造はあるか——ネットワーク分析」

討論 山本吉宣 (新潟県立大学)

松村尚子 (神戸大学)

部会11 「朝鮮半島安全保障構造の起源と展開」

司会・討論 平岩俊司 (南山大学)

報告 朴 正鎮 (津田塾大学) 「1970年代北朝鮮の安全保障認識」

伊藤弘太郎 (キャノングローバル戦略研究所) 「韓国自主国防の起源と展開」

劉 仙姫 (帝塚山大学) 「1970年代のベトナム戦争の展開と韓国」

討論 阪田恭代 (神田外語大学)

部会12 「中国の Sharp Power と東アジアの市民社会」

司会 三宅康之 (関西学院大学)

報告 鈴木 隆 (愛知県立大学) 「習近平時代における中国共産党の統一戦線政策」

倉田 徹 (立教大学) 「Sharp Power から Hard Power へ?——香港に見る Sharp Power の効果と限界」

渡辺 剛 (杏林大学) 「中国シャープパワー攻勢下における台湾国民意識の形成と動揺」

討論 佐橋 亮 (神奈川大学)

阿古智子 (東京大学)

部会13 「『分断』を再考する」(市民講座を兼ねる)

司会 竹中千春 (立教大学)

う文脈から考える」

渡邊 駿（京都大学）

「拡大 GCC 構想におけるヨルダン——アラブの春後の地域秩序におけるスンナ派君主制同盟」

討論 君塚直隆（関東学院大学）

A - 3 **アフリカ** 責任者 杉木明子（慶應義塾大学）

テーマ アフリカにおける「ポスト・コンフリクト」と平和構築をめぐる様々な課題

司会 杉木明子（慶應義塾大学）

報告 藤井広重（宇都宮大学）

「アフリカ連合における地域的刑事裁判所設置の試みと国際刑事裁判所」

片山夏紀（東京大学／日本学術振興会）

「ルワンダ・ジェノサイド後の移行期正義」

討論 望月康恵（関西学院大学）

分科会セッション B（17:30～19:30）

B - 1 **東アジア国際政治史／東アジア** 責任者 阿南友亮（東北大学）／

I 飯田将史（防衛研究所）

テーマ 東アジア外交・安全保障の諸問題

司会 飯田将史（防衛研究所）

報告 長谷川将規（湘南工科大学）

「中国台頭に対する安全保障手段としての TPP」

李ウオンギョン（上智大学）

「日韓間のパブリック・ディプロマシーの現状と課題——両国政府のサイバー外交を中心として」

五十嵐隆幸（防衛大学校）

「1960年代の『大陸反攻』——『攻勢戦略』から『攻守一体戦略』への転換」

討論 阿南友亮（東北大学）

B - 2 **アメリカ政治外交 I** 責任者 小野沢透（京都大学）

テーマ 「超大国」アメリカ再考

司会 倉科一希（広島市立大学）

報告 草野大希（埼玉大学）

「ウィルソンのリベラル介入主義の再考——介入の『構造的問題』に直面していたウィルソン」

田中聡一郎（一橋大学）

「尻尾が犬を振り回す——『白色革命』をめぐるイラン—アメリカ外交 1961～1964」

年」
討論 三牧聖子（高崎経済大学）
小野沢透（京都大学）

B - 3 国際政治経済 責任者 岡本次郎（下関市立大学）

テーマ 自由論題

司会 岡本次郎（下関市立大学）

報告 田巻宏将（前橋清陵高等学校）

「日本の東アジア金融協力——制度間のネットワークの視点から」

尹 海圓（東京大学）

「日韓の産業競争力をめぐる政治経済学——国際分業化時代のサプライチェーン調整にかかわる国家政策を中心に」

徐 博晨（東京大学）

「国際経済を巡る規範の成立——アメリカと開発援助の『無償化』」

討論 和田洋典（青山学院大学）

武内進一（東京外国語大学／アジア経済研究所）

B - 4 トランスナショナル I 責任者 岡部みどり（上智大学）

テーマ <書評会>『「国際政治学」は終わったのか（仮題）』（ナカニシヤ出版、2018年10月刊行予定）から、日本の国際政治学の過去・現在・将来をグローバルな視野から考える

司会 山本吉宣（新潟県立大学）

報告 葛谷 彩（明治学院大学）

「『IR』から『歴史』への回帰——日本の国際政治学からの試み」

芝崎厚士（駒澤大学）

「終わりは、はじまり——オルター国際政治学の構想と日本の国際政治学」

討論 酒井哲哉（東京大学）

中西 寛（京都大学）

B - 5 平和研究 I 責任者 上野友也（岐阜大学）

テーマ 平和のアポリア

司会 松田 哲（京都女子大学）

報告 杉浦功一（和洋女子大学）

「平和とデモクラシーの間のジレンマの検証——『神話』は崩壊したのか？」

市川ひろみ（京都女子大学）

「兵役拒否をめぐるアポリア——アポリアの認定・無視・粉飾と回避・緩和・解決」

討論 定形 衛（名古屋大学）

高橋良輔（青山学院大学）

- B - 6 環境** 責任者 沖村理史（島根県立大学）
- テーマ 環境政策の諸課題
- 司会 沖村理史（島根県立大学）
- 報告 中川洋一（立命館大学）
「メルケル政権下のドイツのエネルギー・気候保全政策の変容と現状」
大久保彩子（東海大学）
「Do Norms Really Explain the Polarization of the International Whaling Commission? Alternative Hypotheses」
- 討論 渡邊理絵（青山学院大学）
沖村理史（島根県立大学）
- B - 7 若手研究者・院生研究会** 責任者 石井雅浩（一橋大学）
- テーマ Rethinking International Institutions
- 司会 石井雅浩（一橋大学）
- 報告 大道寺隆也（早稲田大学）
「Inter-organizational Relations and European Institutions: Human Rights Protection in Criminal Cooperation」
Nicholas Peeters（早稲田大学）
「A Club and Its Gatekeepers: Towards the Reorganisation of the OEEC and Japanese Membership of the Development Agency Group」
- 討論 小川浩之（東京大学）
川嶋周一（明治大学）

◆11月3日（土）

分科会セッション C（13:30～15:10）

- C - 1 アメリカ政治外交Ⅱ／東南アジア** 責任者 小野沢 透（京都大学）／
五十嵐誠一（千葉大学）
- テーマ 冷戦の舞台としての東南アジア
- 司会 五十嵐誠一（千葉大学）
- 報告 鳥潟優子（同志社女子大学）
「アメリカの東南アジア介入の起源——インドネシア独立戦争と米蘭の蹉跌」
篠崎正郎（航空自衛隊幹部学校）
「東南アジア安全保障体制の再編——イギリス＝マレーシア防衛協定から 5ヶ国防衛取極へ、1968-71年」
- 討論 寺地功次（共立女子大学）
都丸潤子（早稲田大学）

- 環境、反発の沈静化を踏まえて」
加藤博章（東京福祉大学）
「湾岸危機以降の国際貢献の模索」
- 討論 信田智人（国際大学）
村上友章（流通科学大学）
- C - 6** **トランスナショナルⅡ** 責任者 岡部みどり（上智大学）
- テーマ 難民保護と国境管理のための南欧諸国間協力——EU 及び域外諸国との対話を中心
に
- 司会 細田晴子（日本大学）
報告 坂井一成（神戸大学）
「地中海の移民難民問題をめぐるフランスの戦略」
八十田博人（共立女子大学）
「地中海移民難民保護とイタリア——国家と市民の相互作用」
今井宏平（日本貿易振興機構アジア経済研究所）
「シリア難民に対するトルコと EU の協調行動」
- 討論 錦田愛子（東京外国語大学）
- C - 7** **平和研究Ⅱ** 責任者 上野友也（岐阜大学）
- テーマ ハイブリッドな国家建設——自由主義と現地重視をつなぐ治安部門改革（SSR）の可
能性と課題
- 司会 古澤嘉朗（広島市立大学）
報告 藤重博美（法政大学）
「第二世代の治安部門改革（SSR）——『自由主義』・『現地重視』の折衷は国家建設
の妙策か」
クロス京子（立命館大学）
「東ティモールの治安部門改革（SSR）——国連と政府のせめぎあいから生まれた国
家建設の方向性」
小山淑子（早稲田大学）
「ジョージア（グルジア）の治安部門改革（SSR）——不均衡な改革履行の力学と課
題」
- 討論 中内政貴（大阪大学）
キハラハント愛（東京大学）
- C - 8** **ジェンダーⅠ** 責任者 和田賢治（武蔵野学院大学）
- テーマ 紛争影響下のジェンダーに基づく暴力（Gender-based violence: GBV）
- 司会 川口智恵（JICA 研究所）
報告 飛内悠子（盛岡大学）

- 交戦略」
堀内賢志（静岡県立大学）
「ロシアの『東方シフト』と『多極化』戦略」
- 討論 湯浅 剛（広島市立大学）
野口和彦（群馬県立女子大学）
- D - 4 理論と方法 I** 責任者 多湖 淳（早稲田大学）
- テーマ テキスト分析が切り開く国際関係研究
- 司会 多湖 淳（早稲田大学）
- 報告 渡辺耕平（早稲田大学）
「国際政治研究における文書データの量的分析」
河合将志（国立情報学研究所）
「大統領演説に見るウィルソン主義——計量テキスト分析による再考」
前川和歌子（エセックス大学）
「Estimating Preferences of Conflict Parties in Civil Wars」
- 討論 多湖 淳（早稲田大学）
- D - 5 国連研究** 責任者 本多美樹（法政大学）
- テーマ 変容する国際秩序と加盟国の国連観
- 司会 本多美樹（法政大学）
- 報告 半澤朝彦（明治学院大学）
「イギリスの国際秩序観と国連観——スエズ危機とイラク戦争、そして平和維持活動など」
上杉勇司（早稲田大学）
「日本の国連平和活動観」
- 討論 青井千由紀（東京大学）
- D - 6 平和研究Ⅲ** 責任者 上野友也（岐阜大学）
- テーマ 自由論題
- 司会 上野友也（岐阜大学）
- 報告 小阪真也（立命館大学）
「国際刑事法廷における『積極的補完性』の実行と国内の法の支配の確立——紛争後ボスニアとセルビアにおける旧ユーゴスラヴィア国際刑事法廷（ICTY）のアウトリーチおよび能力構築機能の意義」
松寄英也（北海道大学）
「黒海における民族少数派と領域制度——ウクライナとモルドヴァの比較分析」
- 討論 片柳真理（広島大学）
中溝和弥（京都大学）

テーマ 安全保障研究における理論と方法
 司会 多湖 淳（早稲田大学）
 報告 芝井清久（統計数理研究所）
 「核不拡散政策における IAEA 査察の抑止効果とその限界点——ベイジアン・モデルによる査察戦略の検証」
 小山達也（東京大学）
 「Disaggregating Peace Failure: The Two Distinct Paths Toward Armed Conflict Recurrence」
 増永 真（秀明大学／明治学院大学）
 「同盟国の政策変更による『バランスング』の機能変化とその受益国の対応——北朝鮮と台湾の対外行動を事例として」
 伊藤隆太（慶應義塾大学）
 「なぜナショナリズムは戦争を起こすのか——新たな理論的枠組みの構築に向けて」
 討論 伊藤 岳（広島大学）

E - 4 国際統合Ⅱ 責任者 臼井陽一郎（新潟国際情報大学）

テーマ EU 政策過程における非国家アクターの役割
 司会 臼井陽一郎（新潟国際情報大学）
 報告 吉沢 晃（同志社大学）
 「EU 競争政策の正統性——消費者の視点から」
 河越真帆（神田外語大学）
 「航空に関する環境規制と民間団体——EU および ICAO レベルでの考察」
 討論 中野 聡（豊橋創造大学）

E - 5 安全保障 責任者 千々和泰明（防衛研究所）

テーマ 現代安全保障課題の諸相——PKO・不拡散・国際機構
 司会 千々和泰明（防衛研究所）
 報告 庄司貴由（日本大学）
 「細川政権期の PKO 政策——国連エルサルバドル監視団（ONUSAL）と日本」
 日高 薫（大阪大学）
 「生物化学兵器の拡散をめぐる『貧者の核兵器』論の再検討」
 秦野貴光（筑波大学）
 「International Norms and Law in an Age of ‘Contested Multilateralism’: The Case of Russian Regional and International Security Policy」
 討論 千々和泰明（防衛研究所）
 戸崎洋史（日本国際問題研究所）

E - 6 国際交流 責任者 馬場 孝（静岡文化芸術大学）

テーマ 日本における国際協力思想の規範化と制度化——戦前・戦後の断続と連続
 司会 馬場 孝（静岡文化芸術大学）
 報告 湯浅拓也（青山学院大学）
 「前田多門と近代日本の国際協力論——
 新渡戸稲造のキリスト教人格主義における『ソシアリチー』に注目して」
 秋月三左子（早稲田大学）
 「日本における開発援助制度の形成過程——1970年代以降を中心に」
 討論 牧田東一（桜美林大学）

E - 7 ジェンダーⅡ 責任者 和田賢治（武蔵野学院大学）
 テーマ 戦後を生きる人々とジェンダー
 司会 和田賢治（武蔵野学院大学）
 報告 北村陽子（名古屋大学）
 「寡婦たちの戦争——第一次世界大戦期ドイツにおける戦争犠牲者援護」
 望戸愛果（日本学術振興会）
 「第一次世界大戦後アメリカにおける『戦争体験』のジェンダー化された序列」
 討論 竹中千春（立教大学）

2. 和文学機関誌『国際政治』193号～196号掲載論文

『国際政治』193号
篠原 初枝「序章 平和的国際機構と歴史研究」
秦野 貴光「ロバート・セシル卿の国際平和機構観」
伊東かおり「戦間期の列国議会同盟と日本」
山越 裕太「ヘルス・ガバナンスの胎動と国際連盟保健機関」
齋川 貴嗣「知的協力から国際文化交流へ」
帯谷 俊輔「『強制的連盟』と『協議的連盟』の狭間で」
小阪 裕城「国際機構に請願する権利」
詫摩 佳代「国際システムの構築におけるトランスナショナルネットワークの役割」
藤井 篤「アルジェリア戦争と赤十字国際委員会（ICRC）」
五十嵐元道「紛争の証言者としての人権 NGO の出現」
山口 正大「アフリカの集団安全保障における地域機構の役割、発展と特徴」
書評：菅原 健志、中村 覚

『国際政治』194号

土佐 弘之「序論 体制移行と暴力——世界秩序の行方」
山崎 望「二一世紀に自由民主主義体制は生き残れるか」
山尾 大「暴力を拡散させた体制転換」
今井 宏平「『主権の空白地』の統治をめぐるせめぎ合い」
澤田 眞治「ブラジル外交と『保護する間の責任』」
佐藤 章「『アフリカの問題のアフリカによる解決』の両義性もしくは逆説」
古内 洋平「移行期における賠償と開発の結合」
古澤 嘉朗「平和構築と法の多元性」
下谷内奈緒「国際刑事裁判の法の支配とその射程」
クロス京子「『女性・平和・安全保障』のパラドックス」
書評：青野 利彦、池田 亮

『国際政治』195号

泉川 泰博「序論 関係回復の論理と実証」
金 成浩「北東アジア冷戦構造変容萌芽期に関する研究」
福田 円「中国とカナダの国交正常化交渉」
八代 拓「日尼国交正常化における民間企業の役割」
千々和泰明「戦争終結の理論」
福島 啓之「敗者の安心供与としての日本国憲法第九条」
石川 卓「『規範』による軍拡？」
江崎 智絵「非国家主体の対外関係とその規定要因」
小野坂 元「戦間期上海租界労働問題におけるYWCAとILOの活動」
書評：望月 康恵、落合 雄彦、衛藤 安奈

『国際政治』196号

高山 巖「再考・ウェストファリア」
鈴木 悠史「スウェーデン外交における自立性の模索」
妹尾 哲志「在欧米軍削減問題と西ドイツ外交」
八代 憲彦「イギリス・ポーランド間の冷戦と戦後処理 一九四五—一九四七」
堀井 里子「EU国境管理ガバナンスにおけるNGOの役割」
劉 仙姫「ベトナム戦争の展開と韓国」
大庭 三枝「現代日本外交の三〇年」
鈴木 一人「日本はリベラル国際秩序の担い手になりえるのか」
書評論文：和田 賢治「国際関係論のクィア的転回」
大原俊一郎「国際関係論のレゾンデートルをめぐる論争」
川久保文紀「グローバル時代の人の移動」
書評：大串 和雄、宮地 隆廣

3. 英文機關紙 *International Relations of Asia-Pacific*

Vol.18, No.2, Vol.18, No.3, Vol.19, No.1 掲載論文

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.18, No.2

I Gede Wahyu Wicaksana, “The Changing Perspective of International Relations in Indonesia”

Andrew I. Yeo, “Overlapping Regionalism in East Asia: Determinants and Potential Effects”

Taehee Whang, Michael Lammbrau and Hyung-min Joo, “Detecting Patterns in North Korean Military Provocations: What Machine-Learning Tells Us”

Kai Schulze, “Japan’s New Assertiveness: Institutional Change and Japan’s Securitization of China”

Muhui Zhang, “Institutional Creation or Sovereign Extension? Roles and Functions of Nascent China–Japan–South Korea Trilateral Cooperation Secretariat”

Book Reviews

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.18, No.3

Chengxin Pan and Emilian Kavalski, “Theorizing China’s Rise in and beyond International Relations”

L. H. M. Ling, “Heart and Soul for World Politics: Advaita Monism and Daoist Trialectics in IR”

Chengxin Pan, “Toward a New Relational Ontology in Global Politics: China’s Rise as Holographic Transition”

Astrid H. M. Nordin and Graham M. Smith, “Reintroducing Friendship to International Relations: Relational Ontologies from China to the West”

Emilian Kavalski, “Guanxi or What is the Chinese for Relational Theory of World Politics”

Chih-yu Shih and Yih-Jye Hwang, “Re-Worlding the ‘West’ in Post-Western IR: The Reception of Sun Zi’s the Art of War in the Anglosphere”

Barry Buzan, “China’s Rise in English School Perspective”

Book Reviews

International Relations of the Asia-Pacific, Vol.19.No.1

Nadalutti Elisabetta, “To What Extent Does Governance Change because of Sub-Regional Cooperation? The Analysis of Iskandar-Malaysia“

Philipp Olbrich and David Shim, “Symbolic Practices of Legitimation: Exploring Domestic Motives of North Korea’s Space Program”

Serafettin Yilmaz and Olga Daksueva, “The Energy Nexus in China–Russia Strategic

Partnership”

Pasha L. Hsieh, “The Quest for Recognition: Taiwan’s Military and Trade Agreements with Singapore under the One-China Policy”

Christina J. Lai, “Rhetorical Traps and China’s Peaceful Rise: Malaysia and the Philippines in the South China Sea Territorial Disputes”

Jeffrey D. Wilson, “The Evolution of China’s Asian Infrastructure Investment Bank: From a Revisionist to Status-Seeking Agenda”

Book Reviews